

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【保健体育／体育】

1. 対象

人間関係は比較的良好であり、ペアワークやグループワークに積極的に取り組もうとする意識はある。
 中学校で柔道を経験している生徒は少なく、高校入学して初めて柔道という単元に触れた生徒が大半である。入学年次は、柔道に入る前の器械運動や基礎基本の受け身・礼儀作法を重点的に行なった。投げ技は支釣込足のみとなっている。投げ技を行う際に、崩しの感覚を持ち合わせている生徒は少なく、足の方に気を取られてしまう生徒が多い。

2. 単元名「武道（柔道：投げ技から固め技の連絡）」（全9時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	- 正しい体捌き、足の運びで投げ技をかけることができる。 - 釣手、引き手を用いて相手を崩すことができる。 - 投げ技からスムーズに固め技に移行することができる。
思考力，判断力，表現力等	- グループワーク通して、仲間とコミュニケーションを取りながら、自己や仲間の課題を発見している。 - 発見した課題に対して、仲間とコミュニケーションを取りながら、より良い投げ技・固め技をしようとしていることができる。
学びに向かう力，人間性等	- 仲間の動きを見たり、聞いたりすることで、自分の動きをより良いものにしようとしている。 - 材料から得た情報を有効に活用しようとしている。

4. 本時の目標（7時間目/9時間中）

グループワークを通して、自己や仲間の体力や技能の違いに配慮しながら、課題を発見し、課題を解決しようすることができる。（思考・判断・表現）

5. 授業展開【**本時**・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

グループワークを通して、自己や仲間の動きを分析し、相互に正しい技を掛けられるようになるろう！

考えるための材料 A	考えるための材料 B	考えるための材料 C
【ipad の使用】 4人グループで ipad を一台用いる。	【模範映像の使用】 投げ技や固め技の見本映像を ipad に共有する。	【チェック表の使用】 各項目をチェックしながら評価する。
想定される活動	想定される活動	想定される活動
技をかけた様子を動画撮影し、フィードバックしている。	投げ技と固め技の正しい形を視覚的に確認する。	見る視点が定まり、フィードバックができる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

全 50 分

○ 0～10 分（全体）

集合・点呼・ラジオ体操・サーキットトレーニング・出欠確認・健康観察・本時の流れ確認

○ 10～15 分（全体）

器械運動・受け身

○ 15～40 分（4人1組グループ活動） 本時のメイン活動

4人1組でipad1～2台を持ち、グループで投げ技（支えつり込み足or体落とし）から固め技（袈裟固or横四方固めor上四方固め）の連絡の練習を行う。

●ipadを用いて動画撮影を行い、自分や仲間がどのような動きをしているのか客観的に確認し、分析する。

●正しい動きがわからない場合は予め共有してある模範映像を確認し、自分の動きとどのような点が違うのか分析し、コミュニケーションをとる。

●仲間の動きを見る視点として、チェックシートを用いてどのような点に着目をして技を掛ければよいかの参考にする。

※（できれば）2つの動画を並べて見れるようなアプリをipadにインストールしておき、分析のための手助けとなるようにする。

「釣手と引き手の使い方はどうだっけ?」「大きなハンドルを回すように使うんだよ。」「足の使い方は?」「足の運び方が違うよ。」「模範映像で確認してみよう。」「自分たちと全然違う。」「打ち込みのテンポが遅いね。」「もっと素早くやってみよう。」「投げ技をうまく見せるには、受け側がうまく投げられないといけないね。」「固め技の掴むところが間違ってるよ。」

40～50分（全体）

振り返りシートに振り返り記入する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・動画撮影をし、自己や仲間の姿を客観的に確認したり、模範映像で見本を確認することで、釣手・引き手で相手を十分に崩したうえで、正しい足さばきや体捌きをしながら投げることができた。
- ・受けの姿勢や体勢に応じて、投げ技から固め技へスムーズに連絡することができた。
- ・グループワークを通して、コミュニケーションを取りながら自己や仲間の課題を発見し、解決しようと活動することができた。
- ・最初はたどたどしかった投げ技・固め技だったが、グループ活動を通して、相互に動きが洗練された。